共同研究グループ活動報告（2025 年度）

英語圏児童文学・文化

2025 年度は、英語圏児童文学の中でもとりわけファンタジー作品におけるケアの問題を中心に研究会を実施し、JSPS 科研費（JP24K03736）の助成を受けて、研究成果をもとに英語圏児童文学会第 55 回研究大会においてラウンドテーブルを主催した。成果を踏まえ、2027 年度刊行予定の叢書に向けて、それぞれが論じるべき作品や論点、アイディアの具体化を進めている。

1．2025 年度第 1 回研究会
2025 年 7 月 27 日（日）14:00-15:30　みなとみらいキャンパス 11F　会議室
参加者：安藤聡、酒井志麻、杉村使乃、鈴木宏枝、田中美保子、内藤貴子、増田珠子、
若谷苑子（敬称略）

11 月のラウンドテーブルの準備として位置づけ、英語圏のファンタジーにおけるケア表象について、発表予定者を中心に以下の要旨案の検討をおこなった。

①「1950 年代以降のイギリスファンタジーにおけるケアの表象」（鈴木宏枝）
②『思い出のマーニー』（安藤聡）
③ A Bear Called Paddington（酒井志麻）
④ Roald Dahl の作品にみられる社会的養護（鈴木宏枝）
⑤「グリーン・ノウ」物語をケアで読み解く（田中美保子）

児童文学に特有のケアを検証するにあたっては、どのような分析の切り口が有効であるのか、またケアする側がケアされる側へと転じる反転性をいかに捉えるべきかといった点が重要な論点として指摘された。あわせて、今後の検討対象として、『たのしい川べ』『ジャングル・ブック』『ガラス山の魔女たち』『マリアンヌの夢』「ケティ」シリーズ、「ムーミン」シリーズ、「ナルニア国ものがたり」シリーズなどが挙げられた。

8 月に、登壇予定者が安藤聡氏から増田珠子氏に変更となった。大会要旨集の『英語圏児童文学会 The Japan Society for Children's Literature in English 第 55 回 研究大会』（pp.11-13）に以下の要旨が掲載された。
①「児童文学における〈ケア〉 ―現代イギリスのファンタジーを中心に―」（鈴木宏枝）
②「パディントン」シリーズ（酒井志麻）
③『マチルダは小さな大天才』（鈴木宏枝）

④「グリーン・ノウ物語」シリーズ（田中美保子）
⑤『床下の小人たち』（増田珠子）

２．2025 年度第 2 回研究会
2025 年 11 月 15 日（土）14:00-16:30 大阪府立中央図書館
参加者：酒井志麻、杉村使乃、鈴木宏枝、田中美保子、増田珠子、若谷苑子

英語圏児童文学会第 55 回研究大会でのラウンドテーブルを 2025 年度第 2 回研究会と位置づけ、各 20 分の発表ののち、フロアとの意見交換をおこなった。

①イントロダクション（鈴木宏枝）
②「パディントン」シリーズにおける〈ケア〉（酒井志麻）
③ロアルド・ダールの作品にみるケアの視点―Matilda を中心に―（鈴木宏枝）
④「グリーン・ノウ物語」シリーズを＜ケア＞で読みとく――ルーシー・ボストン作『グリーン・ノウのお客さま』を手がかりに（田中美保子）
⑤メアリ・ノートン『床下の小人たち』と〈ケア〉（増田珠子）

各発表の要旨は『英語圏児童文学会会報』2026 年春季号に掲載予定である。

3．2025 年度第 3 回研究会
2025 年 12 月 16 日（月）20:00-21:10　Zoom
参加者：安藤聡、酒井志麻、佐々木裕里子、杉村使乃、鈴木宏枝、田中美保子、内藤貴子、
増田珠子、若谷苑子（敬称略）

ラウンドテーブルの振り返りをおこない、今後の研究・出版計画を話し合った。登壇者の発表内容、参加者からのフィードバック、フロアから出た意見を踏まえ、英語圏児童文学を「ケア」の視点から読む意義と方法を再確認した。単に「ケアという視点で読める」ではなく、ケアという視点を通じて読むことで児童文学の核心が見えることを示すために、ファンタジーに限定せず、時代幅のある作品選定を検討したり、有名作品や古典を現代的概念で読み直す意義を明確化したりするという意見が挙げられた。

４．2025 年度第 4 回研究会
2026 年 3 月 8 日（日）14:00-16:00　みなとみらいキャンパス 11F　会議室

2027 年度の叢書刊行に向けて、アイディアを出し合う機会とする予定である。

（文責：鈴木宏枝）